

長野県更埴市 屋代遺跡群

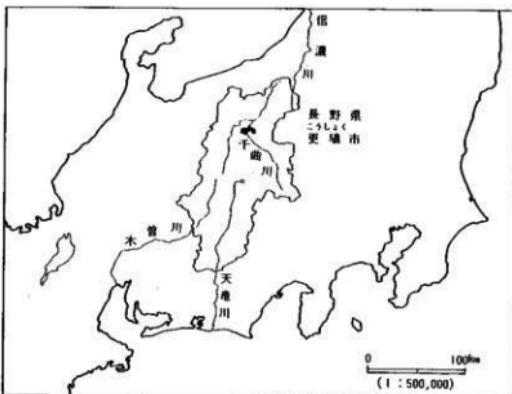
# 町浦遺跡

－大東建託株倉庫建設に伴う発掘調査報告書－

1996

更埴市教育委員会





## 例　言

- 本書は、平成7年度に更埴市教育委員会が大東  
建託倉庫建設に伴って実施した屋代遺跡群「町  
浦遺跡」の発掘調査報告書である。
- 本書の編集及び執筆は、調査担当者が行った。
- 本書中的方位は、平面直角座標系第VII系の座標  
北を示す。また標高は海拔mで示した。
- 本調査に伴う、出土遺物・実測図・写真等の資  
料は、全て更埴市教育委員会が保管している。  
なお、出土遺物には、本調査略号「SMJ」と  
記入されている。

## 目　次

- |           |               |
|-----------|---------------|
| 例言・目次     | 第1章　調査の概要     |
|           | 第1節　概要        |
|           | 第2節　調査の経過     |
| 第2章　遺跡の環境 | 第3章　造構と遺物     |
|           | 第1節　竪穴住居跡     |
|           | 第2節　土坑        |
|           | 第3節　その他の造構と遺物 |
| 第4章　まとめ   | 遺物実測図         |
|           | 写真図版          |

# 第1章 調査の概要

## 第1節 概要

- 1 調査遺跡名 尾代遺跡群<sup>尾代</sup>町浦遺跡 (市台帳No31-21 調査記号 SMJ)
- 2 所在地及び 地番 境内市大字雨宮字町浦413-6番地 他4箇  
土地所有者 境内市大字雨宮91番地 田澤佑一
- 3 原因及び 民間事業＝倉庫建設に伴う発掘調査  
事業委託者 田澤佑一
- 4 調査の内容 発掘調査 270m<sup>2</sup>
- 5 調査期間 発掘調査 平成7年10月13日～平成7年11月14日  
整理調査 平成7年11月15日～平成8年3月29日
- 6 調査費用 1,640,000円 全額委託者負担
- 7 調査主体者 境内市教育委員会  
担当者 小野紀男 境内市教育委員会  
調査参加者 大井操子 岡田栄子 金井順子 国光一徳 神戸富子 小林昌子  
小林芳白 近藤寿人 富沢豊延 西沢豊重 半田なゑ 堀内広人  
宮崎恵子 村山 豊
- 事務局 安藤 敏教育長(～平成7年9月) 下崎文義教育長(平成7年9月～)  
下崎 敏教育次長 山崎芳之社会教育課長 下崎雅信文化係長  
矢島宏雄 岡田 勝 佐藤信之 小野紀男文化係員
- 委託等業者 重機 鈴武田組 報告書印刷 信毎書籍印刷㈱
- 8 種別・時期 集落跡 平安時代～中世  
遺構・遺物 穴住居跡 5棟  
溝跡 4基 土坑 9基 ピット 6基  
土器集中区 1基 集石 1基  
土器片 平安時代～中世 コンテナ5箱

## 第2節 調査の経過

平成7年5月、大東建託㈱より雨宮地籍において、倉庫建設を予定しているとの連絡があった。5月29日施工主である田澤佑一氏と市教育委員会の協議が行われ、発掘調査を実施して保護にあたることとなった。6月19日、57条の提出があり、市教育委員会ではこれを受け、調査の準備に入った。10月9日、田澤佑一氏と更城市長の間に、委託料2,000,000円で委託契約が締結された。

10月13日より重機による表土剥ぎを開始し、11月14日調査を完了した。調査は、建物部分全面調査を予定したが、既存の建物の撤去が間に合わず調査面積が縮小したため、平成8年2月、調査費の減額について変更契約を行った。

### 調査日誌

10月13日	重機による表土剥ぎ開始
10月16日	作業員入り、発掘作業開始
10月17日	測量用基準杭設定
10月19日	豊穴住居跡検出
10月23日	重機を入れ、調査区を拡張
10月30日	遺構検出終了、掘り下げ続行
11月9日	遺構掘り下げ終了
11月14日	残っていた実測を終え、機材を撤収し、本日で現場における作業を完了する。



1. 町道道路 2. 灰塚遺跡 3. 下条遺跡 4. 城ノ内遺跡 5. 生仁道路 (1:20000)

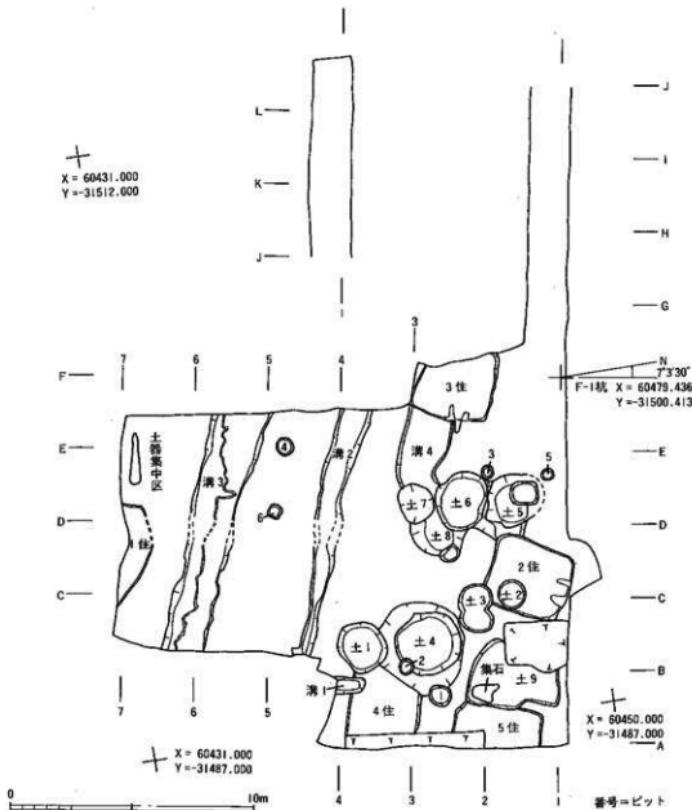
第1図 遺跡位置図

## 第2章 遺跡の環境

発掘調査地は、東経138度8分53秒・北緯36度32分39秒、海拔356m付近に位置し、長野県更埴市大字南宮宇町浦に所在する。遺跡は、千曲川屈曲部東岸に形成された広大な自然堤防上に営まれた集落跡で、大きく屋代遺跡群としてとらえられている。屋代遺跡群一帯は、上信越自動車道、北陸新幹線建設等に伴う発掘調査が行われ、また1995年度から国道403号線土口バイパス建設に伴う発掘調査が更埴市教育委員会によって行われている。

調査地周辺では、1969年に農業構造改善事業に伴い灰塚遺跡及び下条遺跡の発掘調査が行われ、弥生時代から平安時代にかけての集落等が検出され、灰塚遺跡では50点を超える磨き土器が出土した。

調査地は、1969年に発掘調査が行われた灰塚遺跡の南方約100mに位置している。



第2図 調査区全体図

# 第3章 遺構と遺物

## 第1節 竪穴住居跡

### 2号住居跡（第3図、図版2・4）

位 置：C・D-1・2区 規 模：3.40×2.90m 平面形：隅丸方形 主軸方向：N-26°-E  
新旧関係：4号溝跡を切り、2・3号土坑に切られる。

覆 土：大別して3層に分けられ、VII層には焼土が含まれている。柱 穴：不明。

床 面：ほぼ平坦で良く締まっていた。壁：ほぼ垂直に立ち上がり、最大壁高45cmを測る。

カマド：北壁中央に作られており、袖部の残りは良いが煙道部分は調査区外へと続いている。

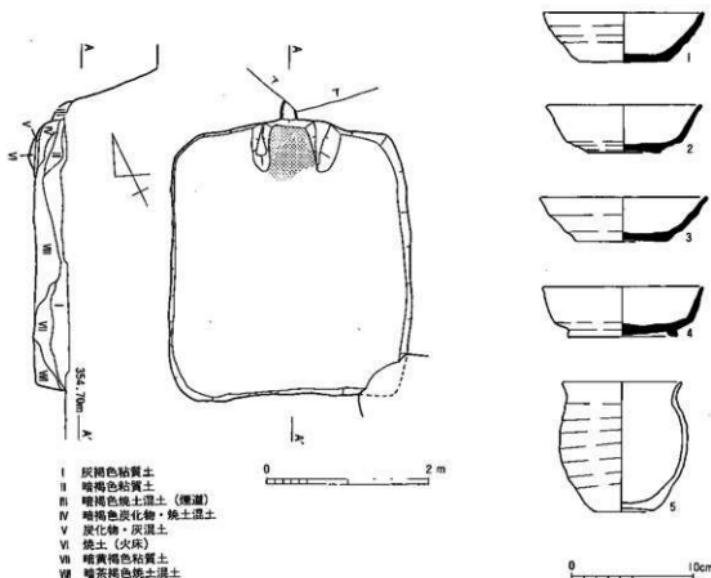
遺 物：1～4は須恵器の杯である。1はカマド焚き口付近から出土した杯で器厚がやや厚く、直線的に立ち上がる口縁をしている。2、3はやや外反する口縁をし、底部には糸切り痕を残している。

4には高台が付いている。5は土師器の甕で底部には糸切り痕を残している。

### 3号住居跡（第4図、図版2）

位 置：E-2・3、F-2区 規 模：3.10×3.00m 平面形：隅丸方形  
主軸方向：N-81°-W 新旧関係：4号溝跡を切る。

覆 土：大別して3層に分けることができ、IV層には炭化物が含まれている。柱 穴：不明。



第3図 2号住居跡及び出土遺物

**床面**：カマドの前面にわずかに叩き締められた部分を確認したのみで、その他は軟弱であった。

**壁**：ほぼ垂直に立ち上がり、最大壁高35cmを測る。

**カマド**：東壁のやや北よりに作られており、煙道が約50cm確認できた。右側の袖部は約50cm確認できただが、左側の袖部は検出の際に半分程破壊してしまった。

**遺物**：全て覆土中からの出土であり図化できるものは少ない。1は須恵器の杯蓋であり、口径17cmとやや大型である。2は須恵器の杯で、僅かに外反する口縁をしている。3は土師器の甕で、外面はタテハケ後ラケズリを施している。

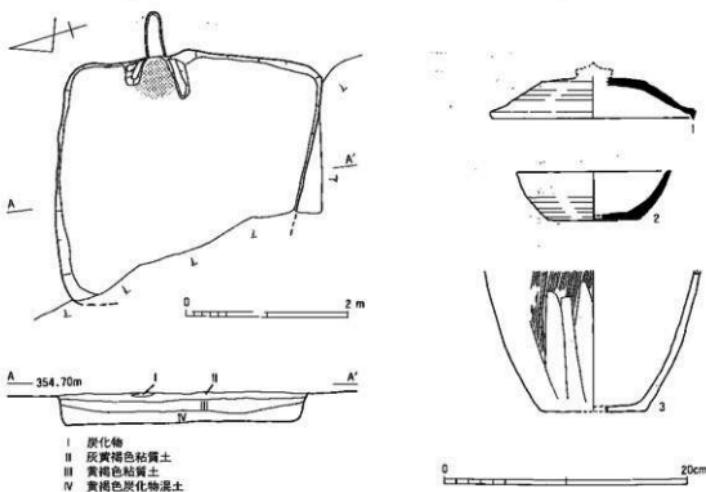
## 第2節 土坑

### 2号土坑（第5図、図版1・3・4）

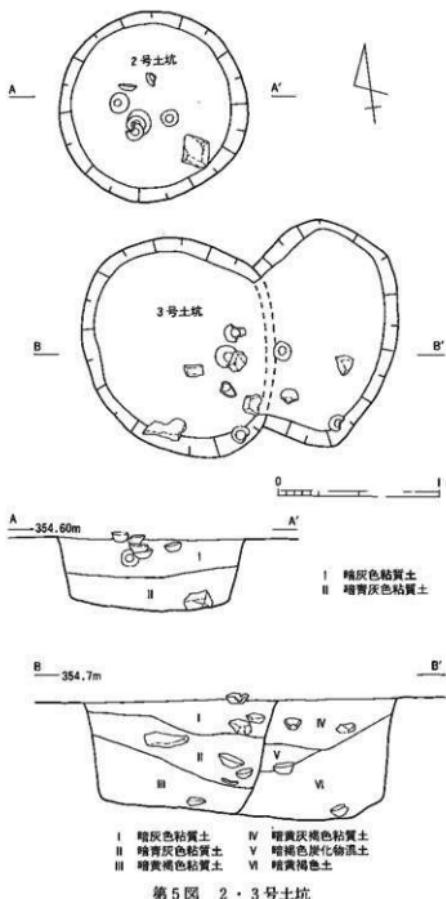
**位置**：C・D-2区 **規模**：直径120cm **平面形**：円形 **新旧関係**：2号住居跡を切る。

**構造**：ほぼ垂直に掘り込まれ、検出面からの深さ45cmを測る。覆土は2層に分けることができ、底部より人頭大の石が出土した。

**遺物**：土師器と須恵器の杯があるが全て完形品であり、また底よりかなり浮いた状態で出土したものである。1～3は土坑のほぼ中央より重なるように出土したもので、3の外面には2文字の墨書を確認したが、1文字は偏の部分が欠失し、1文字は墨痕が薄いため判読不能である。4～7は須恵器の杯でロクロナデによって成形され、底部には糸切り痕が残っている。8は土師器の杯で内面黒色処理されている。



第4図 3号住居跡及び出土遺物



第5図 2・3号土坑

### 3号土坑

(第5図、図版1・3・4)

位 置: C・D-2・3区

規 模: (古) 長軸130cm

(新) 直径120cm

平面形: (古) 方形 (新) 円形

新旧関係: 2号住居跡を切る。

構 造: 2基の土坑が切り合っているが、検出段階では確認できず1基の土坑としてしまった。検出面から深さは古が70cm、新が65cmを測る。2号土坑と同様、覆土から完形の遺物と石が出土している。

遺 物: 完形品が多く、図化できない小破片はごく僅かである。古・新

の2基の土坑の遺物が混ざってしまっているが、出土状況からみると1、2、6が古、3～5、7が新しい土坑に伴う遺物と思われる。1～4は土師器の杯で全て内面黒色処理されている。外表面はロクロナデによって仕上げられ、1、4の底部は回転ヘラケズリ、2、3の底部には糸切り痕が残っている。5～7は須恵器の杯で5の外面上には「刀」と墨書きされているが判読不能である。

6、7はともにロクロナデによって仕上げられ、底部に糸切り痕が残っている。

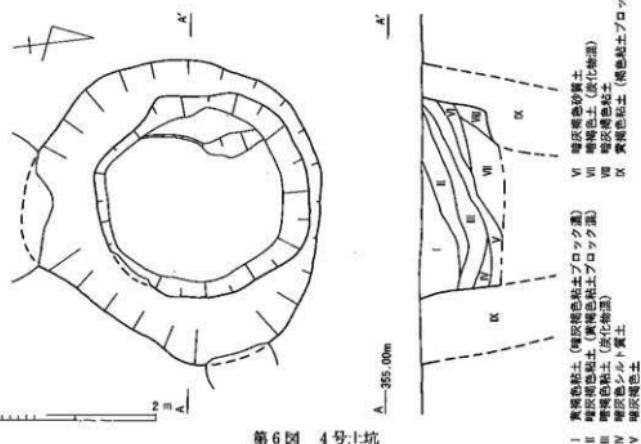
### 4号土坑 (第6図、図版1)

位 置: B・C-3・4区 規 模: 捜方直径3.70m、井戸直徑2.50m 平面形: 不整円形

新旧関係: 4号住居跡を切り、1号土坑、ピット1、2に切られる。

構 造: 井戸跡と考えられる土坑であり、この他に1、6、7号土坑も井戸跡と考えられる。掘方は約75°の勾配で掘られ、井戸跡の勾配はほぼ垂直であるが崩れている部分もある。検出面下1.7mまで掘り下がったが、出水があり危険になつたため、これ以上の掘り下げは断念した。

遺 物: 小破片が多く図化できるものは少ない。1は青磁の壺の口縁である。2は北宋銭の熙寧元宝であり、初鑄年は1068年である。この他にすり鉢の破片が出土している。



第6図 4号土坑

### 第3節 その他の遺構と遺物

#### 3号溝跡 (第7図、図版3・4)

位 置: C~F-6・7区 新旧関係: なし

構 造: (方向) 西北西~東南東。(平面形) 直線。(断面形) 逆台形。(規模) 幅は、西側で2.2m東側で1.8mを測る。この幅広の溝が埋没した後に、幅1.3mで断面かまぼこ形となる溝が、新たに作られている。深さは西側で約20cm、東側で約30cmを測り、西から東にかけて傾斜している。底面には鉄分が沈殿しており、後から作られた溝はこの鉄分沈殿層を掘り込んでいる。

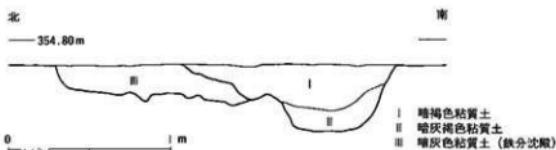
覆 土: 3層に分かれ、I、II層が新、III層が古い溝の覆土である。III層の底面には鉄分が沈殿しているが、覆土にも鉄分が含まれている。

遺 物: I、II層中より出土している。1、2は須恵器の杯で僅かに外反する口縁を持ち底部には糸切痕が残っている。3は石斧である。この他に土器集中区出土の四耳壺と接合する破片が出土した。

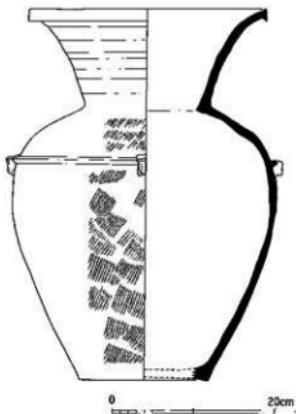
#### 土器集中区 (第8図、図版3・4)

位 置: D・E-7区

遺 物: 四耳壺1個体分が破碎された状態で出土したもので他に出土した遺物はない。口径29.4cm、器高45.9cmを測る大形の四耳壺である。焼成は甘く、断面は茶褐色をしている。3号溝跡出土の破片と接合しており、この溝跡と同時期のものと考えられる。



第7図 3号溝跡



第8図 七器集中区出土土器

#### その他の遺物（図版1・4）

1はA-1区より出土した灰釉陶器であり、口縁がやや強く外反している。2、3には墨書が見られ、2は「万」と判読できるが、3は「卉」と書かれているものの、判読不能である。4はC-3区より出土した杯で、3号土坑に伴う遺物である可能性がある。7は1号土坑より出土した土師質土器皿である。8は青銅製の帶金具である。一辺が3.2cm程のほぼ正方形をしており、裏金具をあてる銅針が4本あるが、そのうち2本は折れていって、痕跡のみが残っている。長さ1.5cm、幅0.5cm程の長方形の穿孔が見られる。9は七新である。10、11は土製の纺錘車で10は土師質11は須恵質である。

## 第4章 まとめ

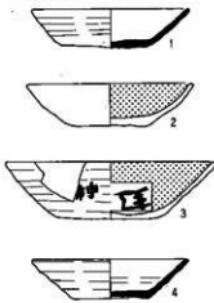
約1か月にわたる発掘調査で多くの成果を挙げることができた。検出遺構、出土遺物の中で特に注目されるものに、多くの完形遺物を出土した2号土坑、3号土坑、墨書き土器、帶金具等がある。

2号土坑、3号土坑（新）は共に直径約120cm、検出面からの深さ45~65cmを測り、底部に人頭大の石が置かれ、底よりかなり浮いた状態で完形の遺物が出土している。これらの遺物と接合関係のない小破片の出土はごく僅かである。特に2号土坑では、3点の杯が重なったような状態で出土している。3号土坑（古）も平面形は方形であるが、遺物の出土状況は2・3号土坑と同様である。また、この付近の遺構検出時に完形の遺物が出土しており、土坑に伴う遺物はもっと多かったのではないかと考えられる。

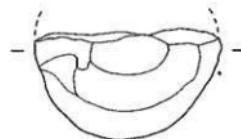
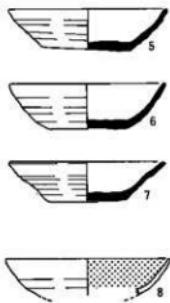
墨書き土器、帶金具の出土も注目される。1969年の灰塚遺跡発掘調査の際にも、50点を超える墨書き土器の出土があったが、今回の調査でも4点（5文字）の墨書き土器の出土があった。一部欠失していたり墨痕が非常に薄かったため、1点を除いて判読不能であった。判読できた墨書は「万」である。この他にも「万」と非常によく似た字体の「刃」という墨書を確認したが、これを「万」と判読することができるか現時点では不明である。帶金具は、その出土位置から5号住居跡の覆土内からの出土と考えられるが、確実に5号住居跡に作るものとは言えない。

最後に今回の調査にあたり、関係の皆さんの御協力に対し深く感謝申し上げます。

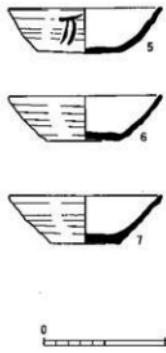
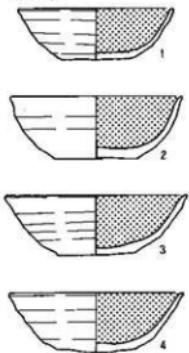
2号土坑



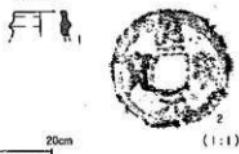
3号溝跡



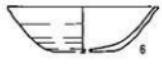
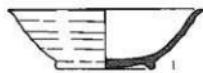
3号土坑



4号土坑



その他の遺物



(8~11=1:2)



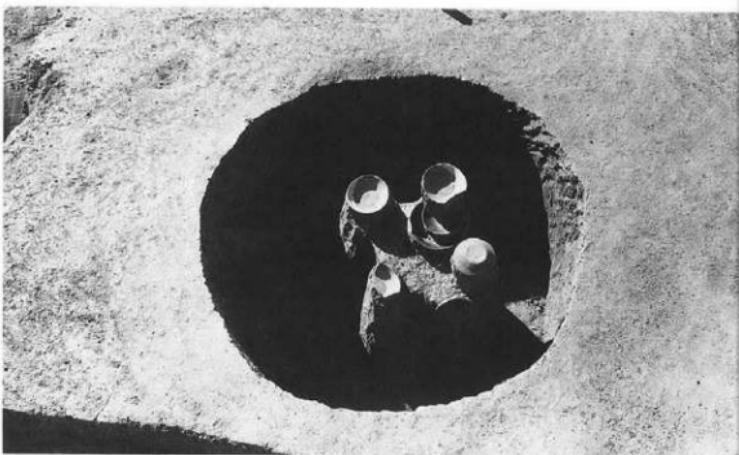
調査前風景  
北側より



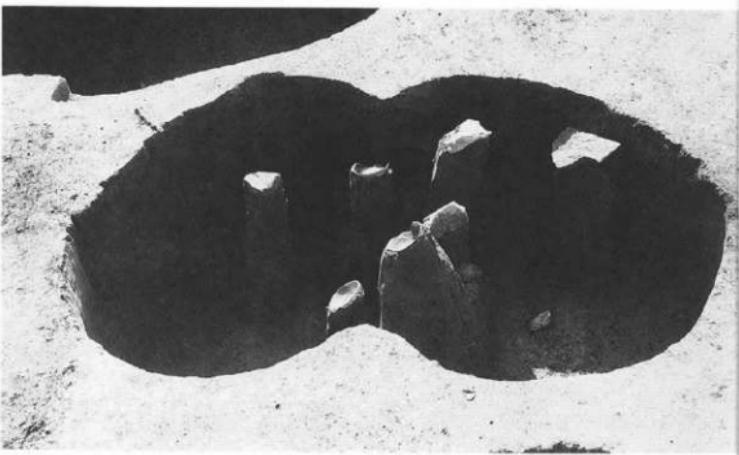
2号住居跡  
南側より



3号住居跡  
西側より



2号土坑  
北側より



3号土坑  
北側より



土器集中区  
南側より

2号住居跡出土遺物



土器集中区出土遺物

2号土坑出土遗物



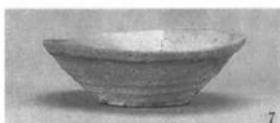
3号土坑出土遗物

3号遺跡出土遺物



## その他の遺物

— 1 —



## 報告書抄録

ふりがな	まちうらいせき							
書名	町浦遺跡							
副書名	一大東建設の倉庫建設に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小野紀男							
編集機関	更埴市教育委員会 社会教育課 文化係							
所在地	〒387 長野県更埴市杭瀬下84番地 Tel(026)273-1111							
発行年月日	1996年3月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所 在 地	コ ー ド	北 緯	東 緯	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
まちうら 町浦	長野県 こうしょくし 更埴市 かわらし 大字西宮宇子町浦 413-6 他	20216 市町村 遺跡番号	31-21 */*	36度 32分 39秒	138度 8分 53秒	1995.10.13 - 1995.11.14	270	仓库建設 に伴う発 掘調査
所取遺跡	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
町浦	集落跡	平安時代	竪穴住居跡 構築 土坑 ピット	5棟 4基 2基 3基	土器類、須恵器、灰陶 陶器、土製品、 金属器（帶金具）	土坑内から墨書き土器を 含む光形土器が出土。		
		平安時代 以降	土坑 ピット	7基 3基	青磁、土器類、古鉄			

## 町浦遺跡

発行日	平成8年3月31日
発 行	更埴市教育委員会
	〒387 長野県更埴市杭瀬下84番地
	電話 (026)273-1111
印 刷	信毎書籍印刷株式会社
	〒381 長野県長野市西和田470
	電話 (026)243-2105

